



東広会ニュース

2月号

2008年（平成20年）

Vol.44

発行所 東京都渋谷区恵比寿南1-5-5
JR恵比寿ビル14F

東日本鉄道東京広告会

電話 03(5447)7928

E-MAIL info@tokokai.jp

J企媒体開発の取り組み

交通広告媒体開発の近況

昨今の交通広告では、新素材や新製品等の関連技術の開発スピードが速く、それらをいち早く取り入れた広告展開も目立つ。J企でもサインボードの薄型化や光源へのLED導入による省エネ化に取り組みつつ、より一層の媒体価値向上を目指している。そこでJ企交媒局媒体開発部長山本孝氏に、サインボード媒体開発における最近のトピックス等について語ってもらった。

サインボードのリニューアルとLED化

J企ではサインボードの「媒体モジュール化等の媒体環境整備」を積極的に推進している。南浦和駅、駒込駅等では、J企独自の媒体リニューアル及び環境整備を行っている。また、駅改良工事に合わせた「大型化・モジュール化」や新たなLEDユニットの開発に取り組んできた。最近の施工例では横浜駅や立川駅中央通路のリニューアルに合わせて実施された柱や壁面への埋め込みサインボード展開や大崎駅線路脇への外照LEDユニットの新設等が挙げられる。

横浜駅中央通路

横浜駅では、07年6月より順次、中央通路内の柱25本59面、同ルミネエントランスゾーンでは12本の柱30面について、エリア毎にサイズを統一してLED光源サインボードを新設した。この事例では、JRの工事・



横浜駅中央通路



立川駅自由通路

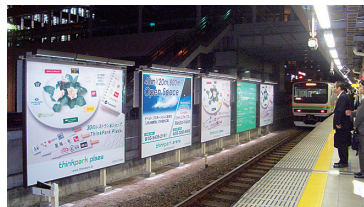
デザイン部門とかなり早期の段階から連携し、開発を行った。直線を基調とした新しい横浜駅の自由通路環境に相応しいデザインで、できるだけ広告面を大型化し、かつLEDを使用した省エネタイプとすべく、広告面のサイズや仕様についてデザインパースを作成して検討した。

特にルミネエントランスゾーン及び改札口正面の柱では、大型シート展開ができるように天井から床までの全面内照タイプとし、迫力のある広告展開が可能な仕様とした。

また、柱埋め込みのポスター板も上部にLED照明を埋め込んだ特殊仕様とし、駅のインテリアに合わせてハイグレードなポスター展開を可能にした。

立川駅自由通路

立川駅では07年10月の「エキユート立川」開業に合わせて自由通路の全面リニューアルが行われた。この改良工事に合わせて、自由通路エリアの壁面上部及び柱埋め込みサインボードもモジュール化し全面リニューアルを実施した。特に通路のデザイン上、壁面上部のサインボードは限られたスペースで広告面積を大きくとるため、横長サイズのLEDが採用された。



外照式LEDユニットを使用した 大型サインボード

07年10月に大崎駅埼京線脇に3m×4mの大型サインボードが5面新設された。このサインボードで当社は初めて、蛍光灯やハロゲンランプの替わりにLED外照ユニットを採用した。このユニットは縦幅3mに及ぶ大型ボードを均一に照明し、かつ省エネ仕様とするために、複数メーカーの試作品による実証実験を経て独自開発したもので、広告面全体を柔らかな光で均一に照らすことができる。LED化により光源寿命は約5倍となり球交換のサイクルが大幅に伸びたことと、消費電力を約4割カットできたことにより、より環境にやさしい仕様とすることができた。

サインボード素材における今後の検討課題

今年度の主な開発事例について述べてきたが、LED業界に限っても数多くの新技術や新製品が多数リリースされている。最近注目されるのは、高輝度かつローコストのエッジライトパネルの登場と蛍光管タイプのLEDユニットである。エッジライトパネルはその構造上、大型化が難しくかつ小ロットにおけるコストはバックライトに比べて割高であった。最近ではパネル製造技術の進歩により、バックライトと同様の条件で利用できる製品が増えてきた。特に一つの光源で両面を広告面に使える「両面エッジライトパネル」は、線路間の両面照サインボードをローコストでリニューアルする際の検討候補となりうる。また、まもなく本格的に製品化される「蛍光管型LEDユニット」も既存の蛍光管を交換するだけで、LED化できるためローコストの媒体リニューアルには最適である。引き続き業界の動向や新製品の情報を注意深くトレースして、媒体の価値向上につなげていきたい。



新規素材の検証

サインボード分野以外にも新素材の実験的展開については、引き続き推進している。08年2月下旬からは広告用途を想定した「電子ペーパーディスプレイ」の実証実験(第3弾)を予定している。

自動改札機における電子ペーパー 実証実験

「電子ペーパー」は表示中には電力を消費せず、表示書き換え時のみわずかな電流を使用する省エネルギー特性に優れた表示パネルで、「紙」

に替わる次世代の表示素材として期待されている。広告分野では、曜日・時間帯毎のコンテンツ切り替え等が可能で、貼り替え不要の素材として、05年12月の東京駅実験、06年12月の山手線車内での実験を行ってきたが、今回は「自動改札ステッカー」への応用を想定し、実際の改札機への実装というより具体的な実証実験となる。

具体的には、2月25日から3月23日までの4週間、恵比寿駅の自動改札機にて実験展開を継続中である。なお今回の実験は自動改札機のメンテナンスを行うジェイ・エール・東日本メカトロニクス(株)が複数メーカーと共同で開発した電子ペーパーパネルを使用して、発色も4,096色と従来の実験よりはより表現力を高めたパネルを使用している。

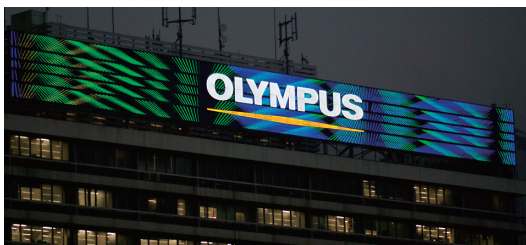
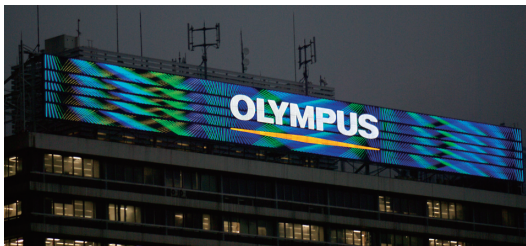
その他新素材

電子ペーパー以外にも有機ELディスプレイの登場や液晶ディスプレイのスリム化、LEDビジョンのローコスト化など、注目すべきテーマは多い。今後とも様々なジャンルの素材から広告用途への応用を検討・検証していきたい。

新宿駅南口にハイテクネオン広告塔登場！



JR新宿ビル(JR東工所ビル)屋上に設置された



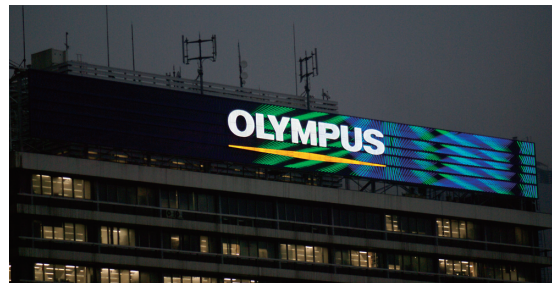
広告塔デザインは刻々と変化し、同じデザインが出現するのは約15,000年後という



新宿駅南口にあるJR新宿ビル(通称「JR東工所ビル」)屋上に、オリンパス(株)がハイテクネオン広告塔「オプト・コスミック・ウェーブ」を新設、1月29日(火)から点灯された。新ネオン広告のデザインは、国際的な版画家であり、グラフィックデザイナーである遠藤亨氏によるもので、「コスミック・ウェーブ」という名前が表すように、色とりどりネオンが幾層もの美しい層を創り出して、圧倒的なスケールを表現している。

このネオン広告は、ネオン管を時間差点滅させることで、毎回異なる組み合わせによる光のデザインを映し出し、デザインのパターンは無限に生み出され、一度使用されたデザインが再び映し出されるためには、約15000年もの年数が必要とされる。サイズはW58.4メートル×H5.3メートル。

また、インバータ式低圧トランス(変圧器のこと)を使用することで、ネオンの輝度が20%明るくなると同時に、一般的な広告塔と比較した場合、同サイズで60%の電源を節約することが可能となり、更に、ネオン広告の表面に使用される彩色シートには、塩化ビニールに代わり、燃焼時にダイオキシシンを発生することのないアクリル系シートを使用するなど、環境負荷の軽減を視野に入れた製作がされている。



実感型広告 気温がわかる駅ポスター展開！

JR山手線25駅のホームに2月6日(水)～12日(火)まで「気温が一目で分かる駅ポスター」が登場した。アサヒ飲料(株)が駅ポスター・山手ホームセットA・Bに展開したB0サイズポスター表面に、デジタル式温度計(縦20センチ、横45センチ、厚さ1センチ)を貼り付けた。

外気温が分かる駅ポスターは、アサヒ飲料の朝専用コーヒー「ワンダ モーニングショット」に対する購入喚起が狙い。折からの寒波で東京地方には雪が舞い、寒さを実感可能な広告展開となった。



平成20年3月ダイヤ改正時及び 平成20年度作業規制期間について

平成20年度の「作業等調整期間」がJR東日本より次のように決定の連絡があった。

これはダイヤ改正及び多客輸送期間中等の列車運転の確保及び安定輸送を図るため、左記の期間が「作業等調整期間」に設定された。

なお、「期間中の広告に関する作業等」については、作業工程の繰上げ、繰り下げを行い、調整期間中には作業は出来ないこととなる。

■平成20年3月ダイヤ改正時

3月14日(金)22時～3月15日(土)22時

■平成20年度作業等調整期間

1 ゴールデンウィーク期間(在来線)
4月25日(金)22時～5月7日(水)9時

2 株主総会期間(在来線)
株主総会前日22時～株主総会当日22時

3 お盆輸送期間(在来線)
8月8日(金)22時～8月18日(月)9時

4 年末年始期間(在来線)
12月26日(金)22時～1月5日(月)9時

5 ダイヤ改正期間(在来線)
(平成20年3月ダイヤ改正を除く)

別途設定する

※詳細は東京メディア・サービス設備管理部安全指導課(電話03・5391・1246)へ

平成19年度第2回 「実車訓練」が行われる

広告意匠交換を行う作業員の安全確保における広告作業関係者を対象とした「実車訓練」が2月6日(水)東大宮訓練センターで行われた。



雪が残るなか訓練に励む参加者

現地では実際に電車を動かしての訓練で、電車及び作業員の安全を守るための信号炎管点火動作、列車を緊急停止させる列車防護訓練が本番さながらの中で繰り返し行われ、安全確保に必要な知識を身をもって体感した。



平成19年度第4回 「登録23社事故防止会議」を開催

線路近接作業安全のために「登録23社事故防止会議」が東京・池袋の(株)東京メディア・サービス本社会議室で1月30日(水)14時から開催された。

この会議は年4回開催され、広告意匠交換を行う作業員並びに広告作業関係者を対象とし、登録23社の担当者、JR各支社事業部、ジェイ・アール東日本企画、東京メディア・サービス設備管理部等総勢38名が出席して安全作業に対する意識の向上を目指し熱心に討議が行われた。

人事異動(J企交通媒体局関係)

2月1日付

山口 猛 次長(前JR大宮駅長)

会員名簿変更

・加入 (2月1日付)

(株)博報堂DYアドステーション

代表取締役社長 伊集院快比古氏

〒105・0021

東京都港区東新橋2・5・4

電話 03・5408・8735

FAX 03・5408・8738

凸版印刷(株)

常務取締役

〒112・8531 時友 利隆氏

東京都文京区水道1・3・3

電話 03・5840・4004

FAX 03・5840・1814

所在地変更

(株)東都宣伝社 (2月12日付)

〒133・0057

東京都江戸川区西小岩4・14・23

北見ビル4F

※電話・FAX番号は変更なし

ミダスアンドアソシエイツ(株)

(2月21日付)

〒108・6028

東京都港区港南2・15・1

品川インターシティA・28F

電話 03・6717・4357

FAX 03・6717・4358

退会

(株)タイヨード

代表者 鈴木 弘一氏 (1月31日付)